



●八女福島仏壇

八女福島仏壇は昭和 52 年通商産業大臣 (当時) より伝統的工芸品に指定されています。

八女福島仏壇

八女福島仏壇仏具協同組合 / 漆工房岩弥

近松 敏夫さん

祖父の代から職人を継いでいます。地道な作業。特に漆塗りには下地の工程が良くないと、仕上がりが綺麗にいかない。一つ一つの作業の積み重ねです。仏壇組合では、市役所新庁舎に飾る漆塗りの板を制作しました。みなさんに見てもらえるので組合員一丸となって喜んで作業しました。なかなか厳しい仏壇業界ですが、漆に光を当てると、新しい可能性も見えてくると感じています。



INTERVIEW VOICE

八女福島仏壇

(株) 緒方仏壇店 ギャラリー一雅

緒方 伸さん

祖父が伝統工芸士で、職人さんたちの姿を見て育ちました。歴史ある仏壇を修復させていただく機会も多々あります。修復することで、次世代に受け継がれる仏壇。百年前と同じ工程が今もできると考えるとすごいことです。時代に添う八女福島仏壇をつくり続けたいです。職人さんが繋いできた技術を自分も受け継ぎ残していきたいと思っています。



伝統をつくる

08

伝統工芸

羽
雛



●八女提灯

日本の盆提灯として知られる八女提灯は、約 200 年の伝統を誇り、経済産業省指定伝統的工芸品に指定されています。



八女提灯協同組合 / (資) マル正伊藤本店

伊藤 正之さん

八女提灯は「灯」からスタートしています。ここまで八女提灯が栄えたのは、竹と和紙がある稀な土地であったから。その後、和紙が絹に変化しました。親父は職人氣質で、型から自分で試行錯誤する姿を見て育ちました。お盆やお葬式など生活様式が変化する中、原点の「灯」として暮らしに寄り添うものになればと思います。組合全体で八女提灯を盛り上げたいですね。



INTERVIEW VOICE

八女提灯

(有) シラキ工芸

増永 葵さん

三人の子育てをしながら働き先を探していた時、偶然提灯の絵師募集があり未経験で飛び込みました。社長に「大丈夫。練習したら必ず描ける。でもただ描くだけでなく伝統工芸士を目指せ」と言われ、ひたすら描き続けて、今年ついに伝統工芸士の認定を受けることができました。長い八女提灯の歴史を受け継いでいることは本当に誇りです。使う方に寄り添った時代に合う柄や色合いを出していきたいです。

